

# 和歌山で感じたこと

Nguyen Duy Minh Tue

教育学部 日本語・日本文化研修留学生 ベトナム

## 和歌山市

ホーチミン市の賑やかな町を離れて静かな和歌山市に到着したとたん、私はよい所に来たと思った。静けさが好きな私は“ここは訪れたことのある場所の中でもっともいいところ”だと感じた。高いところから見下ろすと和歌山市は森林と山の大きな手に抱かれて安眠している子のような感じがした。この寝ている子を感じるために、和歌山市の町のあちらこちらを散歩しなければならない。いつの間にか通りかかった侘しい通りを歩きながらどこかから響いてきた鳥の声、帰る途中の小学生たちの声、風が並木をすりぬけながら通る音に耳を傾けるのが私の好みになってしまった。

「和歌山」という名前の起源は良く分からないけれど、たぶん、山に囲まれた所という意味も含まれているだろう。和歌山市内のどこから見ても山の姿が見える。去年、始めて日本に来た私は、空港から和歌山市までバスで来た。バスの窓から日本という国の姿を目に焼き付けた。1秒も無駄にせずに好奇心を満足させたかった。想像したとおりに、道は建物、車、自動販売機でいっぱい詰まっている感じがあった。だが突然、そのような景色が消えて、緑ばかりの里が目飛び込んできた。“すばらしい！”。山と森林の果てしの無い緑に、私はびっくりした。数カ月後、和歌山県民に欠かせないのは山だとわかった。山は、この里を台風から守っている護衛者であるだけでなく、昔から文学、音楽、詩の話題になってきた。山のイメージは地元の人々の生活に定着しているのみならず、心の一部にもなっている。年中の大切な祭礼が行われる神聖な各神社は、ほとんど山の上に建てられている。世界遺産である熊野古道の魅力が作られたのは、山の清浄な美しさがあってこそである。ある日、用事で隣の大阪の難波を訪れた。突然、山の姿がなくなって、その代わりに、賑やかな都会に囲まれた。そのとき、私は違和感を感じた。いつの間にか、私は山の緑と恋に落ちていた。



## 生活

日本に来たはじめの頃は、ホームシックの日々だった。「お母さんは何をしているだろうか」と、よく想像した。大学生一回生の頃、日本語にはじめて触れた私は、単語、漢字、文法、何度読んでも納得できなかったの、学校を辞めようと心に決めた。でも、そのこ

とを知ったお母さんは、叱ることばを一言も言わず、毎日穏やかに私の文句を聞いてくれ、話し合ってくれた。そして、いつの間に日本語への興味を呼び返してくれた。失敗から立ち直った私は、お母さんの励ます言葉がないと何にもできない。その後、どんな失敗に出あっても、文句を言わず誰も非難せず、前に向かって進み続けた。以前、お父さんが勝手に家族を離れ、お母さんが一人で苦勞して子供3人を育ててくれたが、その間ずっと、彼女は文句を一言も私に言わず、お父さんを非難せず、前に向かって進み続けた。

日本の宝物は人間だ、と聞いたことがある。ホーチミン師範大学で日本語の先生をしている日本人から、私は彼らの熱心さ、真面目さ、責任感、親切さに驚かせてもらった。そのような日本人に、日本で再会できてよかった。空港で出会った警備のおじいさん、郵便局員から専業主婦、先生まで、いろいろな人たちのおかげで、日本での留学生生活を幸せに過ごさせてもらった。

家族を離れた生活は、時々困ることが起こって泣きたいこともある。コミュニケーションは人と人の間の絆を密接にする要素であるのに、自分の日本語は下手だから、自分の伝えたいことを伝えられなくて残念でたまらない。言葉はのどではなく心から出るという。心を相手に伝達して分かってもらえれば人生は幸せである。それができなくて日本での留学期間を無駄にするじゃないだろうが。だから初日から勉強する気持ちをもって自分で会話を練習した。残念ながら、今でも日本語をうまくしゃべれない。考えると言語はその国の国民のころから創り出されるものである。私の日本語がまだ不十分なのは、たぶん私がまだ日本人のころをわかっていないからだろう。



## 勉強

勉強を目的にして日本に来た。和歌山大学の教育インフラ、設備、先生たちの教え方は私を驚かせてきた。ベトナムの大学より一段と素晴らしいと思う。さすが日本の大学だと



びっくりした。留学生向けの支援は完璧だといえる。いつでも、なんでも困ることがあれば学生支援センターに聞くとすぐ答えをもらえる。特に文部科学省の奨学金を受けている私は他の留学生よりいい待遇を受けていると感じている。だから、勉強の成績がだめな場合は私のせいだ、という思いを頭に刻んでいた。それなのに、たぶん私の能力も努力もまだ足りないのだろう。思うような成績は、まだ実現できていない。

留学期間はもうすぐ終了になる。残りの時間はいうまでもなく貴重なものである。この短い時間を大切に活用したいと思う。帰国した後ではできないことが多いので、毎日しっかり考えて、有意義な日々を過ごしたいと思う。